

AIにサポートされた「原爆紙芝居」、次世代への架け橋に！

世界を俯瞰すれば、イスラエルのガザ軍事占拠、アメリカのイラン核施設爆撃、ロシア、北朝鮮の対ウクライナ侵攻など、核保有国が直接、間接的に関与する一連の紛争が長期化していますが、世界平和ページェント2025では、「原爆紙芝居」に取り組むバンクーバー在住の被爆者、ランメル・幸さんを紹介したいと思います。

ランメルさんは、世界平和ページェントの二代目被爆者代表で、初代代表の据石カズさん同様、語り部として精力的な活動を展開しており、現在トロント在住のサーロー節子さんらと協力しながら核廃絶運動に取り組んでいます。それがなぜ今、原爆紙芝居なのか、核保有大国の現実主義に立ち向かう一人の被爆者の生の声を取り上げたいと思います。

紙芝居は古くから日本につたわる子供を対象にしたストーリーテラー(語り部)のルーツですが、ここでのテーマは、広島に投下された原子爆弾で、いたるところにAIを中心とした最新のIT技術が援用されているところが新しい。

AI紙芝居は語り部としての被爆者に代わるゲームチェンジャーとなるか。新たなチャレンジの始まりでもある。

世界平和ページェント代表、木村正弘

P.S.

世界平和ページェント創設以来の協力者、米谷ふみ子さんは年初のロサンゼルス大火で自宅を全焼され、現在シニア施設で避難生活を過ごされています。書斎を失った芥川賞作家に毎日電話でエールを送っていますが、そういう筆者も2ヶ月間の放射線治療を終えたばかりで、まだフル回転には至っておりません。それでもお互いに日々是好日。AIに励まされながら、本年も無事、平和メッセージをお届けできればと願っています。